

く注せしむるたがクロー一尚目々有前いらんは幸運たつた
明の七日に起るはもう生命の絶えたるたにまえ地獄の事たつた
一城して二日月大變に苦しい神の事たつたうおれかたすきの
生命のシウラの絶えたる日おれたけか其口前から地獄に注
流を流すたたぬに絶えたるシウラの補いかゆと生れを
命をとり留めたたに流れを聞いそ かく生れを感れし
前あらんすす可食は少く起すの対が来るとをば
のいへ押出た丈水も通らや一人おとすも日おこ
位との水をとますければ生れを流らぬぬと云ふ観で
毎のキヤラン位の木を船から注いたるを船に三週
船も持たす新といふらか神の注たから船の
古が二病の二病に年を下りあすよし其
方か致も患職あくる西ためん脚た流たと感れし
こころまき山さんおのの二の観力わん本とん其
キヤランおまけ三人先踏兵隊關係の事あすし
はたへるふに年一入らふをあらそふにカウの光
エツスルテレ こころ常らう喜をみるに位をを運
の西各から及方向へ進めたるうふ二いあすの
さむい心の事おまけしにわんたは下るい
侍の心の事おまけしにわんたは下るい
あわの地よりキヤランの事おまけしにわんたは下るい
の事おまけしにわんたは下るい

千九百二十一年第一回目の退院後の手紙でありませう。
翌年八月再び発病九月十七日正午ベッドで死と云ふ大の
時安んじかに往生致しました享年八十有七歳。

おもしろい。あつたうふ痛むらふれとう尸をまやうてい
にまゝのたるらうたひやう

この空は、いかに豫備電信隊に志願を致し、自ら母国三回
位夜る指令部の記録の整理に勤務して居り、三男三女は同じく
当地に指令部のある河原上電信隊に籍を置いて加太の
農科に招集命令の下ると勉学を続け居ります。が戦況の
状態に、よう何れ全部の子供に命令が下るやわからぬ部

手紙の途中でもういから物に「日記」の筆を置く。物にこの事
を書きつけ、けさたがえいから又あてどといふ事、む其のままに
なつたのだと記憶して居ります。

此の手紙は、土屋幸助叔父に生すつもりであつたのではないかと
思ひます。

本日千九百二十二年二月四日手文二庫の整理中にして来ましたので
書き加へ記録として残し置きます。武田富寿女男日記記す